

平成27年度第3回新居浜市地域包括支援センター運営協議会 議事録

1 開催日時 平成28年1月28日(木)

2 開催場所 市役所3階 応接会議室

3 出席者

委員：山内保委員、岸委員、浅井委員、沖委員、坂上委員、定岡委員、西原委員、宮内委員、大野委員、松井委員(9名)

事務局：地域包括支援センター 所長・高橋、副所長・伊藤、副所長・亀井、  
係長・佐々木、係長・越智、保健師・篠崎  
介護福祉課課長・加藤

4 会議内容

- (1)「平成28年度地域包括支援センター事業計画案について」
- (2)「平成27年度地域包括支援センター重点事業の実施状況について」

5 傍聴者 0人

6 議事録

会長	<p>定刻となりましたので、ただいまから、平成27年度第3回新居浜市地域包括支援センター運営協議会を開催いたします。</p> <p>委員の皆様におかれましては、お忙しい中、ご出席いただき厚く御礼申し上げます。</p> <p>まず、議事に入ります前に委員の出席状況をご報告いたします。本日の会議は委員数14人に対し出席委員9人で、新居浜市地域包括支援センター運営協議会設置要綱第6条の会議の成立要件であります過半数以上の出席を満たしておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>それでは、ただいまから議事に入りますが、委員の皆様の忌憚のない活発なご意見をお願いいたします。</p> <p>まず議題(1)の「平成28年度地域包括支援センター事業計画案について」事務局から報告をお願いします。</p>
事務局	<p>はじめに、ご案内でお知らせした通り地域密着型サービス運営委員会は公募していた事業に応募がなかったため、今回議事がないことを改めて報告いたします。</p> <p>資料「平成28年度地域包括支援センター事業計画案について」より説明</p>
会長	<p>ありがとうございました。ただいま事務局から「平成28年度地域包括支援センター事業計画案について」の報告がありましたが、ご意見ご質問はございませんか。</p>

委員	<p>4 ページにケース検討会議とケアプラン検討会議という2種類に分けて提示がされていますが、ケース検討会議とケアプラン検討会議はどのように仕分けをされているのでしょうか。よく似ていますし、解釈の仕方によっては重なる部分もあると思うのですが、目的や違いを教えてください。</p>
事務局	<p>ケース検討会議については、地域の方からの相談に応じて、困難な事例であったり、地域の方を巻き込んで事例を解決していかないといけないような場合に、随時開催しています。昨年度から学習会を重ねてきて、今年度ようやく課題が出てきた時に随時開催できるような体制になっておりまして、地域の方も協力して会議が開ける状態になっています。一方、ケアプラン検討会議ですが、今までケアプランを個々のケアマネジャーさんが立て、それぞれに包括の担当が見直す形はとっていましたが、なかなか中身を掘り下げてまで検討する形をとれていませんでした。全国的な状況を見ますと、ケアプランについても、専門職に来ていただき、それぞれ助言をいただきながら検討するケア会議を開いているということですので、当市でも取り入れていこうと考えています。今は勉強をしているところで、ようやく形になりつつあります。実は明日、外部の専門職の方々に来ていただいて初の開催を予定しております。</p>
委員	<p>わかりました。この文字だけだと分からないのですが、今うかがって、いわゆるタイムリーに相談対応するというのがケース検討会議の目的であり、ケアプラン検討会議は介護保険の利用者のケアプランの質向上を目指す、という風なことです。その辺りが理解できると事業の趣旨がよく分かるので、どういうことをされるかも解り、安心しました。</p>
委員	<p>介護予防リーダーの養成講座で養成された方たちの活躍の場は、どんなところになりそうなのでしょう。他の予防事業とかそういったところにリンクという方法もあるし、継続性という所では包括さんが全部手放しでというわけにもいかないと思うのですが、その辺のご苦労とか、考えておられる課題とかがあれば教えていただけたらと思います。</p>
事務局	<p>当初、健康長寿地域拠点づくり事業をするにあたって、拠点で何をするかをしっかり示さないといけないと、介護予防プログラムを作ることを考えました。そして、拠点作りにあたって各自治会を回らせていただいているなかで、誰がそれを世話するのか、地域の中で民生委員さんのなり手であったり見守りさんのなり手であったり、そういったお世話役が非常に限られているなか、新たにこういうことをすると言ってもなかなか世話する人がいないよといったご意見をいただきました。声を掛け合ってリーダー的な立場になってくれる人、「みんなで集まって、体操しない？」と言ってくださるようなリーダーが育ってくれたらとの思いで、リーダー育成事業と介護予防プログラムと地域拠点作りは3セットで考えなくてはと思いました。リーダー養成講座については、今回県の方でアクティブシニア養成活用事業が活用で</p>

きるということでしたので、こちらの事業を活用させてもらって育成することにしました。そういった主旨があったので、講座を卒業した方が自分の自治会で働きかけて拠点作りに繋がってくれると良いなという思いではあったのですが、今回学習を通じてそれだけではない地域の活躍の場っていうものも、少しみんなで協議した方がいいのかなと考えています。今後もうすぐ講座は卒業となりますが、卒業の回でみんなで話し合う予定にはしています。

委員

これからのヤングオールドの方たちは、地域を見ているというよりは、好きな人たち気の合う人たちで集まるというような、共通の趣味とかで集まっている人が多い気がします。だからグループ作りも少し視点を変えていかないと継続しないのかなと思ったりします。ヤングオールドの人たちでまだお仕事を持ってもらっちゃう方も多いですから。

事務局

幸いこのリーダー養成講座には65歳から70代前半くらいの方の参加が多くて、ヤングオールドといわれる方たちが積極的に応募してくれたという感触があります。ただ地域に出た時、地域の方たちとうまく関係を持ちながらやっていけるかなっていうところに、行政として支援していく必要があるのかなと思っています。

委員

松山辺りもこれをよくしているのですが、企業の社宅チームみたいなところでは、育てたことがずっとそこで定着して動いているのですが、エリアの中で地付きの方と社宅系の方たちとがなかなか馴染みにくい。定年退職してから、そこで自分たちやるぞとはなるんだけど、元々の方とのすり合わせみたいなことですね。

新居浜も企業の街ですから、定年後の方々がどうやって地元と繋がっていくかっていう辺りを町内会長さんや自治会長さんとかそういった立場の方と話し合う場とかが必要なのかなと思います。松山でも帝人とか飛行場周辺に地元の方がグループを作りたいと作られるわけですけど、求めているものが少し違っていたりするという課題があるのですが、住民の方々の持っている特徴辺りをうまく活用させて、盛り上がってくれるといいなあとと思っています。

ただ、ずいぶん回数を増やすけど大丈夫ですか。私たち、各事業の計画を立てる際、よく、前年度より膨らませないといけないという感覚でおりますけど、包括の人は増えるのかな？って。コーディネーターが1人増えるとはあったんですけど、みなさんのオーバーワークにならない様な事業の組み方って非常に大事だと思います。増えているところが結構ありますよね。健康長寿地域拠点作り事業なんか40か所っていうとほとんどの生活圈域というかエリアですか。

事務局

自治会単位の40か所ですので、高知の人口1万人に10か所の話なんかを聞いてみると、その計算でいったらうちでは120か所かなと。3年計画で40か所ずつ増やす計画で、40か所出してはしたんですけども、新居浜市は単位自治会が330ぐらいあるので、それからすると最初はこのくらいからかなという風に思っています。

委員	<p>自治会単位となると難しいですね。確かに 300 余りの自治会があるけど、自治会を拠点にすることに關しては、各自治会が受け入れるか受け入れないか、お年寄りの關係とかそういう面でなかなか苦勞することはあると思います。やはりもう少し行政との話し合いも進めていかないと、今の状態で場所だけ何ヶ所増やそうという計画だけではなかなか難しいところがあるのではないのでしょうか。地域ケアネットワーク推進協議会とか、社協、民生とか自治会、老人会とかありますけど、それが一体となっている自治会とバラバラだという自治会と、案外バラバラという自治会が多いと思います。もう少し何かをして一体となる感じにできなかったら、個々でしてくれと言ってもなかなか「はい、そうですか」というわけにはいかないのじゃないかと思います。</p>
委員	<p>3 ページ、認知症高齢者地域支えあい事業ですが、本当に認知症になっている方が近くでも随分増えてきているような感じを受けています。認知症の家族は大変心配しながら見守っていますが、買い物等で出かけて行っても、帰りは自分の家がわからない、帰る方法がわからないということで、近所の人が見つめて車に乗せて帰ったり、あるいは近くに車を止めて近くまで連れて帰ったりしてくれています。今、市から委託を受けて社協が見守り推進委員という事業をやっておりますが、そういう人たちも通常の独居老人の見守りと同時に認知症になった方が近くにいたら声を掛けたり気をつけたり、そういう実態はあると思います。近くの見守りだったら高齢者でもできます。そういうことで近くの人が認知症だけではなく独居老人とか、そういう人を常に声掛けするとか常に顔を合わせるような状態を近くの人に見てもらったら、そういう活動が広がっていけばかなり効果が上がると思っています。</p>
委員	<p>認知症の方の総数はどのくらいいらっしゃるのですか。</p>
事務局	<p>今新居浜市の高齢者人口がだいたい 3 万 6 7 0 0 人ぐらいですが、そのうち 2 割の方が認知症と言われております。認知症でも、物忘れがある程度から、今したこともできない、洋服が着られないとか程度があるので、徘徊の恐れのある数を出すのはなかなか難しいと思います。7 0 0 0 人くらいいる認知症の方のうち徘徊の恐れがある方を登録して安全とか生命の危険とかを回避しようというものなので、認知症の方全員を見守るというより、ちょっと、緊急な時の対応というネットワーク作りを目的にしたものです。</p> <p>資料より説明</p>
委員	<p>どこまで情報をお知らせするのか、その情報の内容によってはプライバシーとの兼ね合いで今、大変問題になっていますけれど、新居浜市としてはどこまでと考えているのですか。</p>
事務局	<p>協力機關に關しては、協力機關の誓約書に「これで得た情報はこれ以外に使いませ</p>

	<p>ん」という文言がありますので、事前登録した写真も入った内容で検索の依頼を出します。市民一斉に見ることができるメールマガジンとかインフォ新居浜については高齢者の個人名は伏せて、年齢・性別・外観の特徴、白髪頭であるとかメガネを掛けているとか出かけた時の服装はこういう服装だ、といった内容程度に限ります。ただこれもケースバイケースで、ひどく緊急性を要する場合とかご家族の意向もうかがって「名前も出してください」と言われるような場合には、随時対応になると思っています。現在詳細については検討をすすめているところです。</p>
委員	<p>実際検索活動をしてみると、写真が更新されておらず、3カ月前のものだったりすると現状とかなり違ったりします。本当に情報って難しいなっていうのを感じます。あと、これは24時間体制ということになるのでしょうか。</p>
事務局	<p>警察から市役所に来た場合に放送の関係があるので、朝の7時から夜の9時までの時間ということになっております。放送については、防災無線の放送で各町との取り決めがあるようなので、それに合わせております。</p>
委員	<p>この新しい仕組みというのは大事なことだと思いますが、人数が多いということは徘徊するまで放っておいた事例が多いということになるので、会長さんがおっしゃったようにコミュニティネットワークを一方でしっかり作りながら、それでもなお抑えきれない徘徊の方をこういうネットワークで支援していくと。</p> <p>これはもう30年くらい前からいろいろな所で試みていますが、このネットワークの中に、たとえば新居浜だったら、徘徊される方が一番どこに行きそうかという視点が大切かと思います。地域によってはJRの駅とかガソリンスタンド、コンビニ、そういった日常的に歩いて行きそうな場所、その辺りを啓発しながら入れていかないと。大きなスーパーや医療機関とかは、実際にはあまり行かない。じゃあ、その人の行動範囲はどうなのかといった辺りと整合性を図りながら啓発するとか、そういう声をあげると有効になると思います。それは事例の積み上げにもなると思うので、ネットワークの参加者を増やす時に民間の小さな力を活用できると良いなと思います。徘徊対策だけ頑張ったら徘徊の人ばかりいっぱい登録するかたちになると思いますが、プランのところと連携を取るとか認知症対策全体とのすり合わせを大切にしたいので、良い形でこの事業を進めていただきたいです。</p>
委員	<p>位置情報とか、そういうものは使わないのですか。</p>
事務局	<p>登録の申請があった際、家族のもとを訪問して、今までに工夫した点や困っている点などをお聞きしますが、多くの方は携帯電話のGPS機能が付いているものを用意してカバンの中に入れてたりしても、わざわざそれを出して出かけて行くことがあるとおっしゃられています。今回、包括で首下げ式のお守りペンダントというものの購入を準備しているのですが、これは金属製のカプセルになっていて、その中に身分証明</p>

	<p>的なものとか疾患とかいった情報が入っています。それをご家族の方に渡して、利用できる方には使っていただこうと思っています。悪用の心配もないわけではないのですが、とりあえずやってみようかなと思っています。</p>
委員	<p>登録してくださる方はいいんですね。家族に黙っていなくなった場合は、認知機能が低下しているっていうのを警察がわからないために、ちょっと遊びに行ってるのだろうと夜まで放っていて、夜探すということで手遅れになりがちですね。そういう意味では家族支援というかみんなに助けてもらおうよっていう啓発とのつながりも必要ですね。体裁が悪いから登録はしないというご家族もいらっしゃるんじゃないかと思います。</p>
事務局	<p>いらっしゃるんですね。</p>
委員	<p>私の経験ですが、20年とか30年近所に住んでいて、子どもさんの家に転居された90歳くらいの方なのですが、20年ぶりに夜電話が掛かってきて、「会長さんですか？」と。前に私が自治会長をしていた時の知り合いだとわかり、「どうしたんですか」と尋ねると、「どこの犬かはわからんのだけど、犬が自分の家にきて、追っ払っても帰らん」と話される。車で行っても30分くらいかかるところに住んでいるので、その自治会長さんを探したり老人会長さんを探したりして、「ちょっと行ってあげてください」と連絡をとって行ってもらったら、その犬は本人さんの飼い犬だったんですね。</p> <p>また、一人住まいしている人が認知症になって、子どもさんとかにいろいろ連絡を取り合った経験もありますし、突然家の裏口から夜の11時くらいに「助けてください」と言うから、どうしたのかと思って出たら、近くの方だったんですが、認知症で自分の主人を主人として認識できず、他人が家の中にいると訴えられる。これもびっくりしました。すぐ帰してもいかんと思って30分くらい話ししながら、ご主人に電話して「落ち着くまで預かっておきます。」というようなこともありました。</p> <p>いずれも私は認知症だと知っているの対応でしたが、わからずに急なケースもあることを考えると難しいですね。だけどやっぱり、認知症の方を持つ家族で、みんなに知ってもらおうと公にする人はなかなかいないと思います。少なくとも近くの方は状態が判りますから、組ごととか自治会の範囲ぐらいの人が協力してあげるといった状態が一番現実的な見守りができる気がします。</p>
事務局	<p>認知症については、市民の皆様にも、どういう症状があったら認知症のはじまりかも知れないとか、認知症の方に対してはこういう対応をとった理解が深まるように、今後も啓発努力をしていきたいと思っています。</p>
委員	<p>認知症でもだいたいレベルの違う、ごく初期の認知症の方なんですけど、車に乗って治療に来られ、ほんとに特に気づくようなことがない状態なんですけど、受付で保険証</p>

	<p>の認識ができないんですよ。去年の保険証と今年の保険証がわからない。あるいはお金が認識できないんですよ。十円なのか百円なのか、千円なのか一万円なのか、だから受付の子に聞いてこれがいくらと支払いをするわけです。それが1回ではなくて来る度にそういうこと、これは明らかに認知症。ただ普通なんですよ、車の運転もするし。市内なら、家族の方がおられたら家族とか民生委員さんとかに連絡しますが、他市から来られる場合もあるんですよ。四国中央市の方だと、四国中央市の地域包括支援センターに連絡するということが良いのでしょうか。</p>
事務局	<p>そうですね、はい。</p>
委員	<p>たぶん家族の方も気がついてないですよ。普通の生活はできるんですよ。時々まだらというか、そういう症状の出方なんですよ。</p>
事務局	<p>包括でたちまち動いているケースなのですが、公安さんのほうで気づき、専門の病院で認知症の診断も出て、免許の取り消しをされている高齢者がいます。本人は病識がなく、免許がないのにどうも車に乗っている様子です。子どもさんは他県にいらっしゃるのですが、やり取りが少ない。</p> <p>ご本人は近時記憶に弱い、また10時10分の時計の図を書いてくださいと言うと、とんでもない図を書かれたりするのですが、長谷川式検査をすると30点中24点といった高得点。お医者様からは運転は無理と判断されましたが、お電話でたまに話す息子さんには、わからないんだと思います。包括が訪問に行き、警察にも連絡してやり取りしないといけないと動いています。</p> <p>お話のような方であれば、四国中央市に情報を出されたら、どこから通報があったということではなくて、高齢者訪問みたいな形で出向いていかれ、関係機関に繋いでいただけたらと思います。ぜひ情報を流してあげてください。もし直接連絡しにくいようでしたら、うちから四国中央の包括に繋がりますので、おっしゃっていただけたらと思います。</p>
委員	<p>認知症の症状はいろいろで、形状が記憶できなかつたりとかエピソード記憶障害とか陰性症状とか、そういう方もいらっしゃるのでね。</p>
会長	<p>いろいろご意見、ありがとうございました。それでは次に、議題の「平成27年度地域包括支援センター重点事業の実施状況について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料「平成27年度地域包括支援センター重点事業の実施状況について」より説明</p>
会長	<p>ありがとうございました。ただいま事務局から「平成27年度地域包括支援センター重点事業の実施状況について」報告がありましたが、ご意見ご質問はございません</p>

か。

委員

健康長寿拠点づくりですが、この事業を40か所にするという時に、参加していただく高齢者の年代や階層はどこに焦点をあてているのでしょうか。筋力アップが軸になるとなれば、実は四国中央市でも同様のモデル事業をしているのですが、体操レベルの人は時間がなくて忙しくて来なくて、むしろ集まりたいと言われるのは孤立していて、どうにかこうにか自分のことはできるけど、体操なんかしたらポキッといきそうな人もいますよ。

新居浜はヤングオールドさんが多いし時間のある人もいるし年金も持っているから集まってくれるとは思いますが、運動を軸足にすると決める土台になった健康調査とか分析とかはどうなのでしょう。40か所はどういう風にセレクトされて、お手上げ方式ではあるけれど、新居浜全体の地区の中でマップに落とした時に、この人はぜひこの事業に参加してほしいような健康レベルの人が多いなとか、ここはもう自主性があるから良いかなとか、そういうところでこの40か所の選択というのを何か意図的にされるのか、自治会館を使うということは決まっているけれども、包括としての介護予防事業の有効性みたいなものがあってこのようにされているとしたら、その辺がみんなにわかっているかなと。これを発案する前にぜひぶん調べたり考えたりしていますよね。そこを聞くとよくフィットするかなと思います。

事務局

平成26年度に約1万人に対して基本チェックリストを実施していますが、だいたい3割ぐらいが2次予防事業の対象者として引っかかる状況でした。引っかかっている項目を見てみましたら、運動機能低下が18.2%、認知機能の低下が31.2%、鬱の傾向が28.3%、口腔機能の低下が19.9%というような内容でした。認知機能の低下が31.2%と一番多いので事業の軸を認知機能に置くべきか、それとも運動機能に置くのか迷いました。そこで、26年度の日常生活圏域ニーズ調査で介護が必要になった原因というのをみてみたのですが、高齢による衰弱が25.3%で一番多くて、次に認知症20.4%、骨折・転倒19.7%、脳卒中・心臓病・関節の病気という順になっています。高齢による衰弱が多いということは生活習慣病の傾向が非常に強いと思います。

認知症については、認知症の予防というと、よく読み書き計算といった、脳を使うような作業をしています、「これをしたら絶対」というのはなかなか難しいところです。それに、読み書き計算が嫌だ、歌を歌うのは嫌だという人もいます中、ひとつのことを全域に浸透させるのはかなり困難なことだと思います。そういったことを考え、元になっているものは何かと考えた時、結局は脳の血流をしっかりと起こすところが共通している。ではやはり運動して血液循環を改善すること、動脈硬化の進行を緩やかにすること、衰弱等々によって要介護になるのを防ぐために筋力を蓄えておくことを考えて、運動に焦点を当てよう。ただ、運動に焦点を当てる場合、参加される方の年齢差のことがあります。また、今般の制度改正で、地域の中で生活支援サービスとして訪問介護に変わるようなもの、軽度の方の通所介護であれば地域で支えていけるようなことも考えていきたいと思いますという向きの中で、要支援1・2、あるいは要介護1・



2 ぐらいの方が来られた場合にフォローできるようなものが良いかなということで、理学療法士会と相談し、セラバンドを使って、強弱を調節できるようにもっていきましようということになりました。なので、その方の筋力や関節の程度によってセラバンドをどう使っていくか、使うのか使わないのかも含めて負荷を変える様な形で考えています。強度の調節や回数の増減によって、各自の体調に合わせて、ある程度幅広く使ってもらえると思っています。

あと選定の校区についてですが、校区だけで言いますと、高齢化率が高くなれば2次予防事業対象者も多くなるという想定はつきやすいと思います。ですが、高齢化率はそう高くないけど2次予防事業対象者の出現率が高い校区、川西圏域に多いのですが、そういった校区が心配な感じがします。大島と別子については特殊な事情があるので、高齢化率は非常に高いのですが、2次予防事業対象者の出現率は、大島は非常に高いのですが、別子は平均 30%の中で 20%という低さです。ひょっとしたらもう2次予防事業の対象になるような状況では別子山では暮らせないので、今暮らしているみなさんは元気な方だけという状況なのかなと推測しています。大島についてはすいよう会さんが頑張ってくれていたり、こちらのデイサービスに通えたりということもあるので、ある程度島に残って頑張っている方も多いのかなと想像したりしています。

大島・別子以外の校区については出現率が 30%ぐらいで、高齢者の割合も似たりよったりの感があります。こういった状況からみれば、旧市内の方から拠点がどんどん立ち上がってくれるとうれしいところではあります。この事業自体がワーキングの中で自治会の活性化を兼ね備えてということで出発しておりますので、まずは自治会の決定を尊重していますが、私たちが見つけている地域ができるだけ立ち上げてくれるように説明会をしていきたいと思っています。また、個別に窓口で基本チェックリストなんかもしたりしますけど、そういった方たちを中心にこちらから通いの場に行くようなアプローチも進めていきたいと思っています。

委員

わかりました。筋力低下防止で機器を使って運動をするというのは十数年前に介護保険が始まる頃に流行りましたが、今はもうほとんど衰退してなかなかうまくいっていないという状況があります。その中で、筋力なのか有酸素系の運動をしながら息長く体を動かすものなのか、どちらも健康レベルとか年齢階層によってずいぶん違うので、どう組み合わせるのが気になりました。

また、事業が委託になる場合に、包括が「こうしよう」と目指しておられることが委託先に丁寧に伝わって、本当の意味でのプロフェッショナルな力を発揮していただければ効果は上がると思われませんが、評価をしようと、委託したところに細かい指示をしたら「降ろしてもらいます」と言う所もあります。事業投資した部分と成果を上げる評価の所が難しいという前例が多数ありますし、新居浜市の包括職員が少ないのをよく知っていますので、気になるところです。

あと、ヤングオールドはこれでいけるかもしれませんが、もっと年齢が上がったら、高齢化しているけど結束はすごい強いとか、そういう人たちの生きる力みたいなどこ

ろが、集まることによって高まるというそれでも良いのかなど。体操が浸透しなくてもよい地域とそうじゃない地域。データを持っておられるので、45の地域をマップにおとして、期待する地区と手を挙げた地区がずれていないのか、手は上げないけどリスクの高い地区はあると思いますので、そのあたり丁寧に頑張っていたらと思います。

私も高齢期に入っておりますが、そういう意味では自分には何が必要かということと一人一人が自覚して、生活に取り込めるようなチャンスにするということだと思っておりますので、方法論の所にだけシフトして高齢者がしんどくならないよう、工夫して頑張っていたらと思います。

委員

今年度、説明会は50回ほどされている中、立ち上げは5ヶ所ということですが、手挙げをしてくれなかったところは、来年度の見込みがあるということなのでしょうか。それとももうしないということでしょうか。

事務局

毎週1回開催ということで、誰が世話をするのかということが引っかかって、そこを何回か説明したり話し合ったりしましたが、踏み込めず、今年度の開始に至らなかった自治会がありました。また、会場の確保のところ、自治会館を持たず、他所に会場を見つけたもののこの内容では難しいと、見送る判断をされた自治会さんもありました。

内容については、新居浜市は独自の内容に取り組みたいという所が多い土地柄のようで、実は介護予防プログラム一つで広がっていくのかという不安も抱えております。

「うちではこういうことをしたい」、「うちでは違う取り組みをしたい」みたいに取り組みしたい内容がありまして、こちら柔軟に対応したり支援したりできれば良いのかもしれない。先ほど先生も介護予防としての効果ではない所に効果を求める、別の意味での効果を求めていくところもありだとおっしゃっていましたが、取り組み内容によってはそれもそうだと思う反面、とりあえずは要介護になる原因というのはやはり機能の低下というところがあるので、そこはまず押さえておいて、別の所にも希望があれば広げていくという、最初のラインは崩したくないという思いもあります。その中で内容としてはうちの自治会の内容に合わないということで見合わせることもあります。

委員

開催場所までやって来ること自体、いろいろな運動機能がないとやって来れないと思いますから、1週間に1回通うこと自体が効果的であると思います。元々は健康長寿地域の拠点作りというところを考えると、支援する側とすればいろいろなことをするのは大変でしょうが、決してこれを取り組まないからということとその部所を外すのではなく、どういうことでも1週間に1回高齢者たちが集まることを推進していくことは良いことだと思います。1年で終わりではもったいないことで、ずっと続くためには地域みんなが好むことを進めていかれるのがすごく良いのではないかと感じました。

	<p>50回も説明会をされるという大変な状況で、自治会の協力の問題もあると思いますが、あまりハードルを高くしすぎても手挙げはしにくい気がしまして、また次年度は、本当に40まで増えるのかという心配もあり、質問させていただきました。</p>
<p>委員</p>	<p>本音は、いろいろしたいけど、国が決めた回数とかマニュアルとかをあまり逸脱はできないのですかね。だけど、週1回が大変なら10日に1回でも良いと思うし、したいことも組み合わせて良いような。受けて立つ側がアレンジに乗っかっていながらその地区の人たちのやる気とか力とか、そういうものを盛り込んでいけばいいのではと思っています。国が出している事業の枠組みにあまりにも当てはめてしまうと、逆に高齢者の方や手伝う方が「そんなことなら・・・」となるけど、そこは厚労省が見に来るわけではないし、より効果的なものという根拠さえあればアレンジしても良いと思います。40か所にする時に同じパターンでみんながプログラムを使って一定の時間何分ずつこれをするみたいな形にしないで。好き放題はダメだけど根拠に基づいたものであれば、運動でも60cm以上の歩幅で何メートルか歩けば、そういうデータは認知症との関係がこうだとか文献的にはいろいろなことが出ているので、体操をしなくても筋力トレーニングをしなくても、歩いただけでも気をつけて歩幅を保ちながら歩行をするというのでもあっても良いかも知れないし、その辺はどうなのでしょうね。それは企画側の限界があると思うけど、地域の人が気持ちよく参加できるための方策みたいな、さっき地図を作るみたいなことをご紹介いただいたけど、遊び心があって初めて人は集まってくるのかなと。いいところいっぱい知っておられるのでそんな気がしました。</p>
<p>会長</p>	<p>ほかに何かご質問ご意見はございませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>この事業は、実際にされている自治会に対して何かインセンティブみたいなものはあるのでしょうか。最終的に立ち上がった自治会に対して、たとえば資金的な援助とかそういうものは何もないということでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>実は昨年度、自治会の方からは金銭的な支援・要望が上がっておりました。今年度については、立ち上げるところについては、必要な備品等を揃えるという意味で1か所あたり8万円の交付金を出すようになりました。</p>
<p>委員</p>	<p>それはちょっと増えるかも知れませんがね。電気代とかにあてられますね。津山市と一緒に見学に行きましたけど「運動はどうでもいいんですよ」と本当はこそって言うてくれて、「ここでみんなの顔見て話するのが良い」と、究極はそこなのだろうと。民生委員さんもそこに集まっているからそこで一度に情報が貰えるということと、そういう意味での地域の活用ができていたので、そういうことが自然発生的なこととどんどん広まっていくと良いかと、そこはちょっと仕掛けとか見守りを選択的に見ていかないと、できるところとできないところの差が大きくなるかなと。やっぱり新居</p>

	<p>浜市民の人があそこに行かないと損と思わせるように面白くしておかないと。</p>
事務局	<p>今年、介護予防プログラムがないということで、地域であんなことができる、こんなことができるという説明会に回りましたが、したいことがある自治会もある半面、何に取り組んだら良いのかわからない自治会もけっこうありました。こちらとしては自治会が取り組みたいことを応援するという形で今年度については持っていきましたが、その取り組みたいことがわからないから何を願ったらいかがかわからないと、そのイメージがつかないからもうちょっと様子を見ますという所もありました。</p> <p>確かに介護予防プログラム一辺倒でやるつもりはないのですが、取り組みの切り口になってくれたら良いなという思いで「とりあえずはこれに取り組んでみませんか」と。取り組みやすく、何をしたらいいかがイメージしやすいので「やってみようか」とやっているうちに「あそこに行ったら楽しいよね」「みんなが居るよね」「私お茶汲みだけ何か役割あるよね」「あそこなら私が行っても良いよね。」とだんだん繋がって、「私はこの地域に居れるんだ。私のこと心配してくれる人がいるんだ。繋がってる人がいるんだ。」と思って、安心してくれたら良いかなと思っています。</p>
委員	<p>報告会は誰が参加し、発表はだれがするんですか。</p>
事務局	<p>参加者と今の所は自治会長さんとかに声かけをしようと考えています。</p>
委員	<p>まだ日にちは決まってないのですか。</p>
事務局	<p>日にちは今日決まりたてで3月25日に。</p>
委員	<p>場所はウィメンズですか。</p>
事務局	<p>はい、ウィメンズプラザを予定しております。</p>
会長	<p>ほかにご意見はございませんか。時間を超過してきましたので、今のところ中間見込みということで、また今後の計画・ご報告をいただいてということで、今日はここまでにしたいと思います。それでは最後に事務局から何か報告等がありますか。</p>
事務局	<p>特にございませんが、次回については3月下旬に予定しておりますが、また決まりましたらご案内させていただきたいと思っております。今日はありがとうございました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。予定しておりました議題がすべて終了致しました。長時間にわたりまして熱心にご協議いただきましてありがとうございました。これをもって本日の会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。</p>